



# 日記の魅力

幕末から大正期に、水戸の商人によって記された小泉家日記。つづられた言葉の一つ一つから、当時の息遣いが聞こえてくるかのようです。  
問合せ／市立博物館(☎226・6521)



▲小泉家日記(市立博物館蔵)…小泉家の代々の当主によって書かれた35冊の日記。この日記を含め、手紙など、900点以上ある小泉家文書は、当時の水戸の商家の動向を明らかにするうえで貴重な史料として、水戸市指定文化財に指定されています。

皆さんも、日記を書いたことがあるかと思えます。学校の宿題の絵日記に始まり、人知れず思いをつづったノート、ブログやSNSに記したもののなど、さまざまな思い出があるでしょう。実は、日々のこうした何気ない記録が、後に歴史を物語る大切な文化財となることもあるのです。

市立博物館では、そのような日記を数多く収集・保管、調査しています。その中から、今紹介するのは、馬口労働(現末広町)の油問屋当主・小泉茂兵衛の日記です。弘化4(1847)年から大正9(1920)年にかけての全35冊が残っており、日々小泉家のもとに入ってくる情報やうわさが凡帳面に記されています。

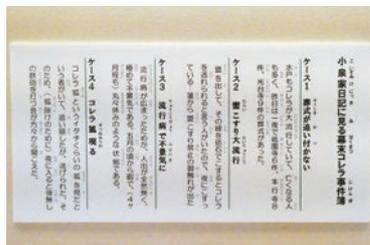
例えば、幕末に流行した伝染病コレラ(コリ)について、文久2(1862)年8月の日記には、コレラとともに「薄氷を踏む心地」であると書かれています。近隣の「薄氷を踏む心地」であるとして、大変魅力的な記録です。ぜひ、博物館で、日記に記された幕末の水戸の様子を感じてみてください。



▲虎列刺(コレラ)退治(東京都公文書館所蔵)…コレラはトラ、オオカミ、タヌキが合体した妖怪の姿で記録に残され、当時の人々の恐怖心が伝わってきます。水戸では、「コリ狐」として、キツネの姿で現れたとされています。

たとパンニックになる人々の様子などが記録され、淡々とした記述の中から、茂兵衛の不安な気持ちが見えます。これは、新型コロナウイルス感染症によって、日常生活がおよびやかされている現代の人々の心情と重なるかのようです。

現在、歴史部門の常設展にて、小泉家日記を展示しています。また、日記と併せて、書かれている内容をわかりやすく解説したパネルも設置しています。



商人の視点から、当時の水戸の街の姿を見つめたものとして、大変魅力的な記録です。ぜひ、博物館で、日記に記された幕末の水戸の様子を感じてみてください。

## 【歴史部門】

水戸の歴史を物語る歴史資料の収集・保管、調査を行っています。特に、水戸藩や、水戸空襲に関わる資料の収集に力を入れています。

### ▼常設展を開催中です

市立博物館は、常設展の展示内容を一新し、6月13日にオープンしました。

開館時間／9:30～16:45

入場料／無料

休館日／月曜日・祝日 ※祝日が日曜日に重なる場合は、開館。

【発行】水戸市 ☎029・224・1111(代表)  
〒310-8610 水戸市中央1-4-1  
ホームページ／<https://www.city.mito.jg.jp>

【編集】みとの魅力発信課 ☎029・224・5188  
✉kouhou@city.mito.jg.jp